

わかばでの思い出

2007年度卒園児 増田 蓮 (高校3年生)

私のわかばでの思い出の中で特に記憶に残っているものが三つある。

一つは遊具でたくさん遊んだことだ。私が園児だった時、遊具のロッククライミングが大好きだった。大小様々な変わった石を上手く使い、手と足をかけて高い壁を登っていくことが楽しかった。どこに手足をかければ速く登れるのかを壁を見ながら考えることも楽しかった。そんなとてつもなく大きな物と思っていた遊具も、高校3年生の私からすると小さく感じた。あんなに高いと感じていたロッククライミングも手を伸ばせば一番上にまで手がとどくほどの高さで、今まではあまり感じる事のなかった体の成長を強く感じる事ができた。

二つ目は保育園内になっている木の実をみんなで食べたことだ。園内になっているザクロの実などを、土管の上にみんなで並んで座りながら、または誰がたくさん食べるのか争いながら食べたことを覚えている。みんなで食べた木の実は特別に美味しく、今でも、その味を覚えている。この経験のおかげか、今でも食べられる木の実を見つけたときは、つい食べたくてしまう。

三つ目はわかばへの道を歩いていることだ。私がボランティアとしてわかば保育園へ向かう一番最初の日、小さな川や水車を見て、牛のおいをかいで、虫や鳥の声を聞いて、わかばに帰ってきたことを強く感じた。そこまで長い道ではなかったが、ゆっくりと景色を眺めながら歩いていたら、20分もかかってしまった。しかし、トンボを一生懸命捕まえたり、地蔵の前ではしゃいだりしたことを思い出すことができたので、この20分間はとても良い時間だったと思う。

ボランティアに来たことで、小さい頃に帰ったような気持ちになり、とても楽しかった。

保育士を目指して、夏休みにボランティアに来てくれました。友だちと楽しそうに走りまわったり、おしゃべりをしていた蓮くんの姿を、昨日のこのように思い出します。楽しみに待ってるね！(明日香保育士)

第39回 わかばまつり

大きくふくらむ希望と笑顔 未来へつなごう わかばの輪

10月26日(土) 10:00~14:00

雨天決行(荒天時 27日(日))

子どもの遊びコーナー、バザー・手作り品、山形のおもち、お抹茶、やきとり、わたがし、ポップコーン、やきそば、カレーライス、フランクフルト、アンジュ、杉の子、寄席、陶芸、



舞岡公園で撮影

キツリフネ(黄釣船)

葉の下に咲く花が帆掛け船を釣り下げたような形が名前の由来とか。草丈は40-80cm、葉は縁がギザギザになっています。花期は秋、水辺などの薄暗いやや湿った場所で出会えます。

野原 遊



社会福祉法人あらぐさ会/わかば保育園・新杉田のびのび保育園・笹下保育園
〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町992番地 Tel/Fax 045-443-5564
あらぐさ会ホームページ <http://www.aragusakai.sakura.ne.jp/>

2019年10月号



食べることは、生きる力=今、保育園給食があぶない！

登園するなり、給食室をのぞき込み「きょうのおきゅうしょくは、なに？」と問いかける子ども。お迎えに見えたおとうさんやおかあさんに、「みて、みて！きょうのきゅうしょく、おいしかったよ。」と話す子ども。毎日のように見かける姿です。子どもたちにとって、給食は身体を作るだけでなく、何を、どんなふうに、誰と食べるかが、今も、大人になっても、心を豊かにしていく土台になる大切な営みです。

国は、10月から3歳以上児の保育料無償化を口実に、消費税10%引き上げ、それを理由に、給食の副食費を公定価格から外し、保護者負担にします。主食費はもともと保護者負担ですから、国は給食の提供を実質的に保育所の役割から外すこととなります。私たちはとても見過ごすことはできません。

日本は、稲作中心の食文化が発達してきました。今ではいつでもどこでも手に入るお米ですが、農民一揆や米騒動など、生きていくために命を懸けた人たちがたくさんいました。そんな時代は遠い昔と思うかもしれませんが、私の曾祖父(親の親の親)のチョット前のこと。その後、1941年に始まった太平洋戦争(第2次世界大戦)のため、戦地に優先的に米を送る戦時統制法として1942年に「食糧管理法」が制定され、米だけでなく塩、砂糖などほとんどの物が配給となりました。戦後も米は「配給制度」で、8人家族の我が家ではそれだけではとても足りず、母がうどんを打ち、いろいろな野菜を入れて嵩(かさ)増しした「ほうとう」を作っていました。みんなお腹をすかせていました。

戦後、新しい憲法のもと、児童福祉法ができました。二度とあの時代を繰り返させない。戦後の保育運動をさらに発展させていかななくてはいけないと改めて感じています。

給食の時間は大人も子どもも、みんな笑顔になります。お腹も心も満たされるからです。どの子どもも健やかに育つために、これからも、よろしくお祈りします！

社会福祉法人あらぐさ会 理事長 辻村久江

